

再発見 地上にあるボール

第14条「地上にあるボール」はボールそのものに関わる Law ではありません。「地上にあるボール」の周り集まって活動するプレーヤーに関する指示規則です。‘No Tackle’ タックルが原因でない場合という文字が日本語では欠落していますが、tackler や tackled player に関わることと区別し注意される意味のある大切な言葉です。

ボールが地上にあり、プレーヤーがそれを獲得しようとしている状態にあるときに、プレーヤーがボールを捕まえる (gather) ため、グラウンドへ向って行くときに起きる状況での Law です。「グラウンドへ向って行く」というのは未熟な表現ですが、原文は ‘go to ground’ であって、falling down (倒れること) と区別しています。それらは全く同じではないということです。倒れてしまっているプレーヤーでもないし、タックルされたプレーヤーでもないのです。

スクラム、ラックの場合は含まれないというのは、言うまでもなくそれらの場合はそれぞれの Law に決まっています。ボールを獲得するという場合に get でなく have でなく gain でもなく、gather という表現は一連の活動の中で適切なものです。

タックルされたのではなくプレーヤーがボールを持って地上に横たわった (ている) 場合も (also) を指すことを追加しています。自分でつまずいたり、捕まえられかけ、相手の手や腕が離れた場合です。

現行14条はずっと以前の Law にはありませんでした。現代ラグビーの基本型といわれる1971年の Law に次のようにあります。基本理念は同じです。

LAW19 Lying on or near the ball

A player who is lying on the ground and

- (a) is holding the ball, or
- (b) is preventing an opponent from gaining possession of it, or
- (c) has fallen on or over the ball emerging from a scrumming or ruck, must immediately play the ball or get up or roll away from it.

「競技は立っているプレーヤーによってされるものである」ということは、「倒れてプレーしてはいけない」というだけでなく、「立っていないさい！」と強く説いているのです。プレーヤーが倒れている ‘falling down’ ことによってボールが unplayable になることが多いのです。原文は ‘falling down’ ではなく ‘go to ground’ と区別していることを改めて認識しなくてはなりません。‘go to ground’ はボールを継続するためのプレーです。

ボールを unplayable にするプレーヤーまたは「倒れていることによって相手チームを妨害するプレーヤーは競技の目的と精神を否定することである」と明記するこの宣言を深刻に受け止めなくてはなりません。勝つためとはいえ絶対に許されることではありません。自然な動きの流れに中での行動であるという自信(?)と勝つために必要であるという自負(?)のもとにボール(周り)に倒れこむプレーヤーの行為が見受けられ、通常のプレーになってしまっている感じがします。レフリーも (Law が分かっている) 判断に自信が持てないのか笛を吹いていません。

go to ground から falling down に進んだ・・・

14.1 条 地上に横たわっているプレーヤー

直ちに (immediately) 行わなければならないことは3つあります。

immediately は他のことは何もしないで行いなさいということです。

さらに

ボールをパスしたり手放したプレーヤーは直ぐに (at once) 立ち上がるかボールから離なければならないのです。

「自然、当然の流れ」という自信(?)と「勝つため」に有効(?)という意識のもとに複雑な行動が常識的に行われています。レフリーは判断に自信が持てないままに笛を吹かないので空文になってしまっています。

14.2 条 地上に横たわっているプレーヤーがしてはならないこと

14.1 条の問題点がレフリーにとっては、複雑な行動が混んとして、より一層複雑になり、easy でない状態となっています。

IRB はラグビーを simple に easire にする方向を打ち出して Law の改訂をしていますがかなかなか成果が見られません。「ラグビーはプレーが先」と古くから言われているように、プレーを元気一杯楽しむ追うれーやーの活動が源泉ですから、徐々に自然な流れの中で進化していくものと思います。しかし、競技の目的や精神を否定する行動についての反省は常になされねばなりません。私のコラムが反省の材料に幸いです。

2010.06.28

西川 義行